

セーフコミュニティちちぶ 交通安全対策委員会

—再認証 事前審査—

発表者：委員長 金子 理恵子

所属：秩父タクシー協会

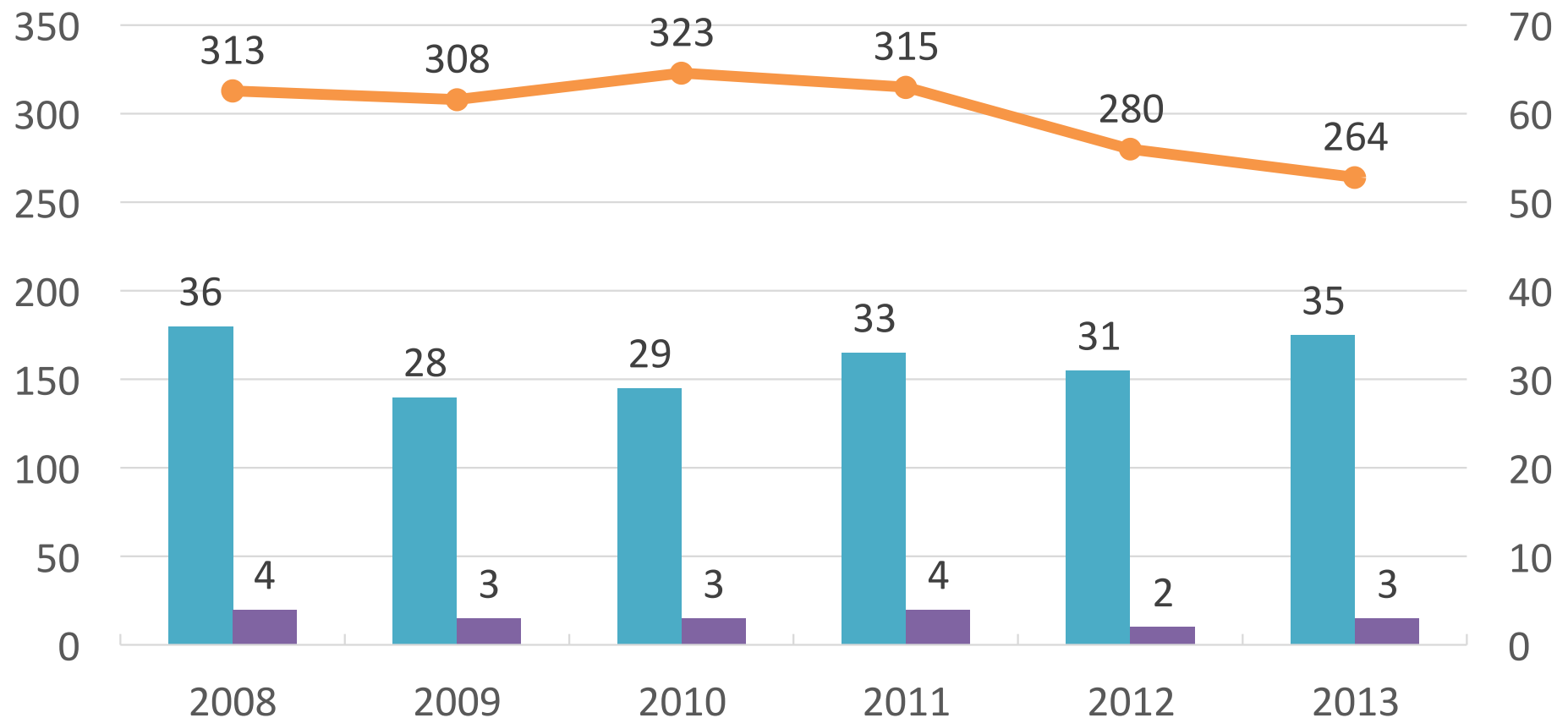
対策委員会設置の背景①

秩父市内の交通事故発生件数は、年々減少しているが、死亡事故の発生件数は横這いであった。

(図表 1： 秩父市内の交通事故発生件数の推移 重傷者数および死者数の推移)

■ 重傷 ■ 死亡 ● 発生件数

出典：警察統計データ(2008年～2013年)

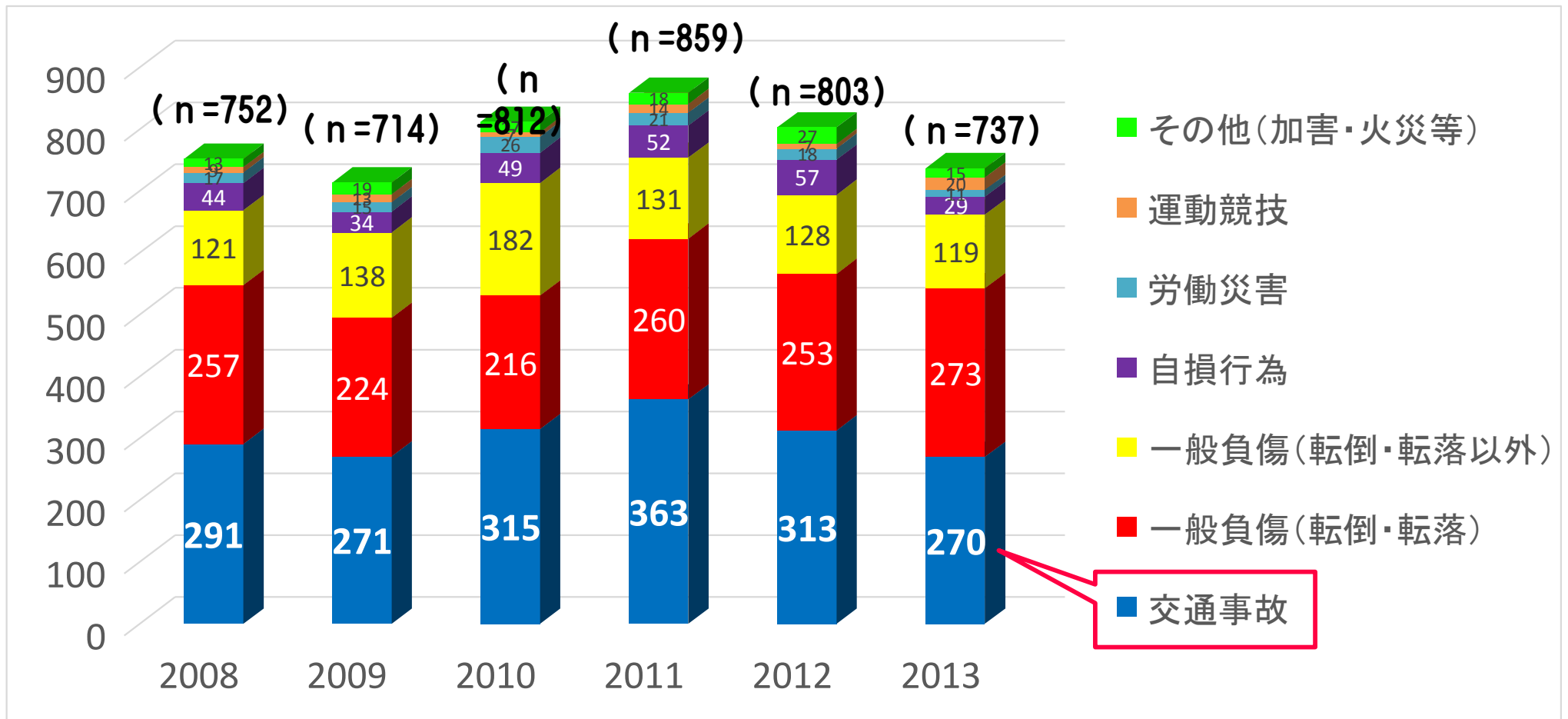


対策委員会設置の背景②

事故別の救急搬送の中で交通事故が多かった。
(救急搬送の約40%は交通事故による外傷)

(図表2 : 事故種別による分類 外傷・事故別救急出動件数) (n = 総数)

出典 : 救急搬送データ (2008年 ~ 2013年)

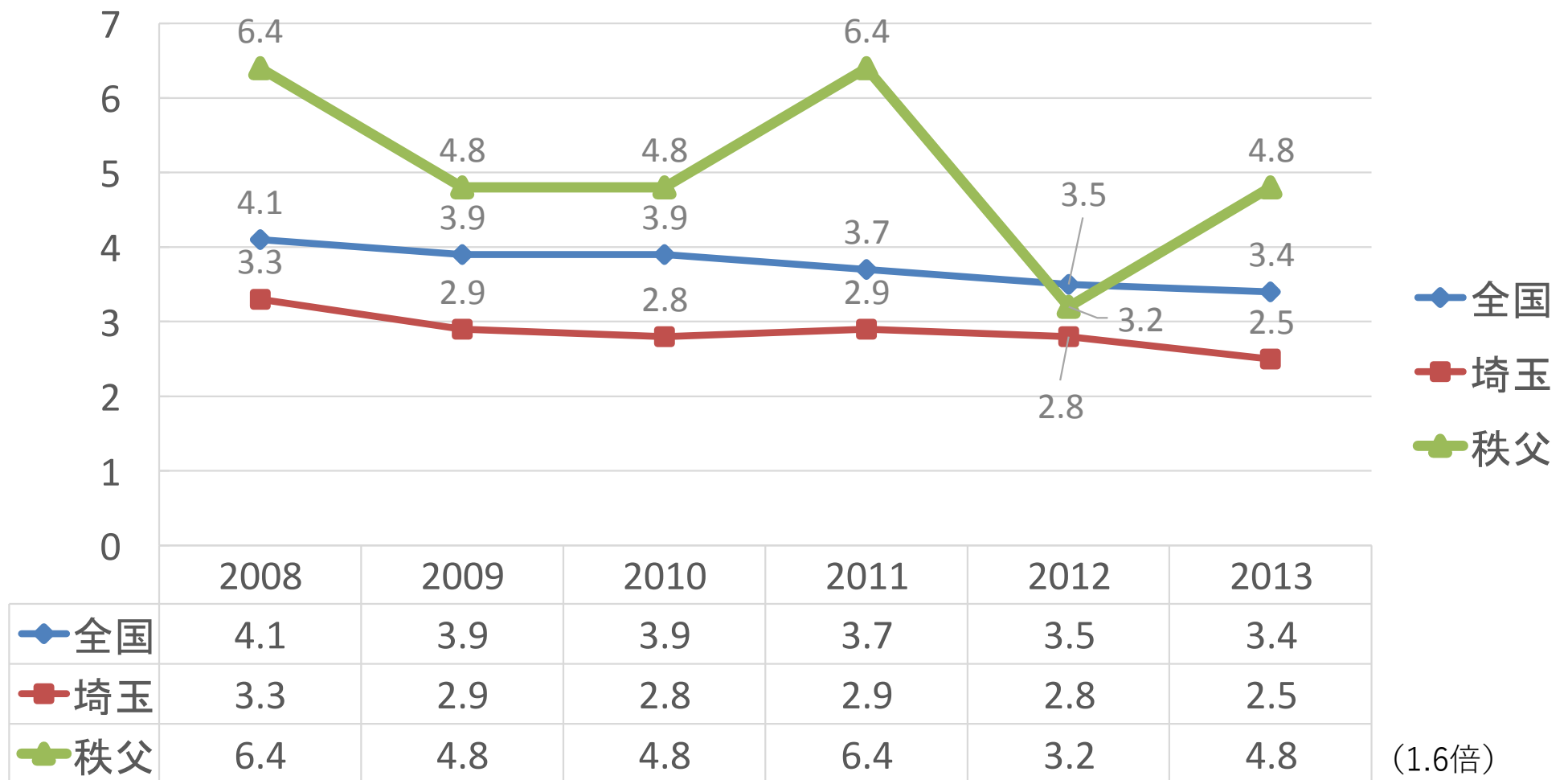


対策委員会設置の背景③

秩父市内の交通事故死亡件数は、国や県を上回っていた。

(図表3 : 交通死亡事故発生件数の推移 件数及び人口10万人あたり)

出典:警察統計データ(2008年~2013年)

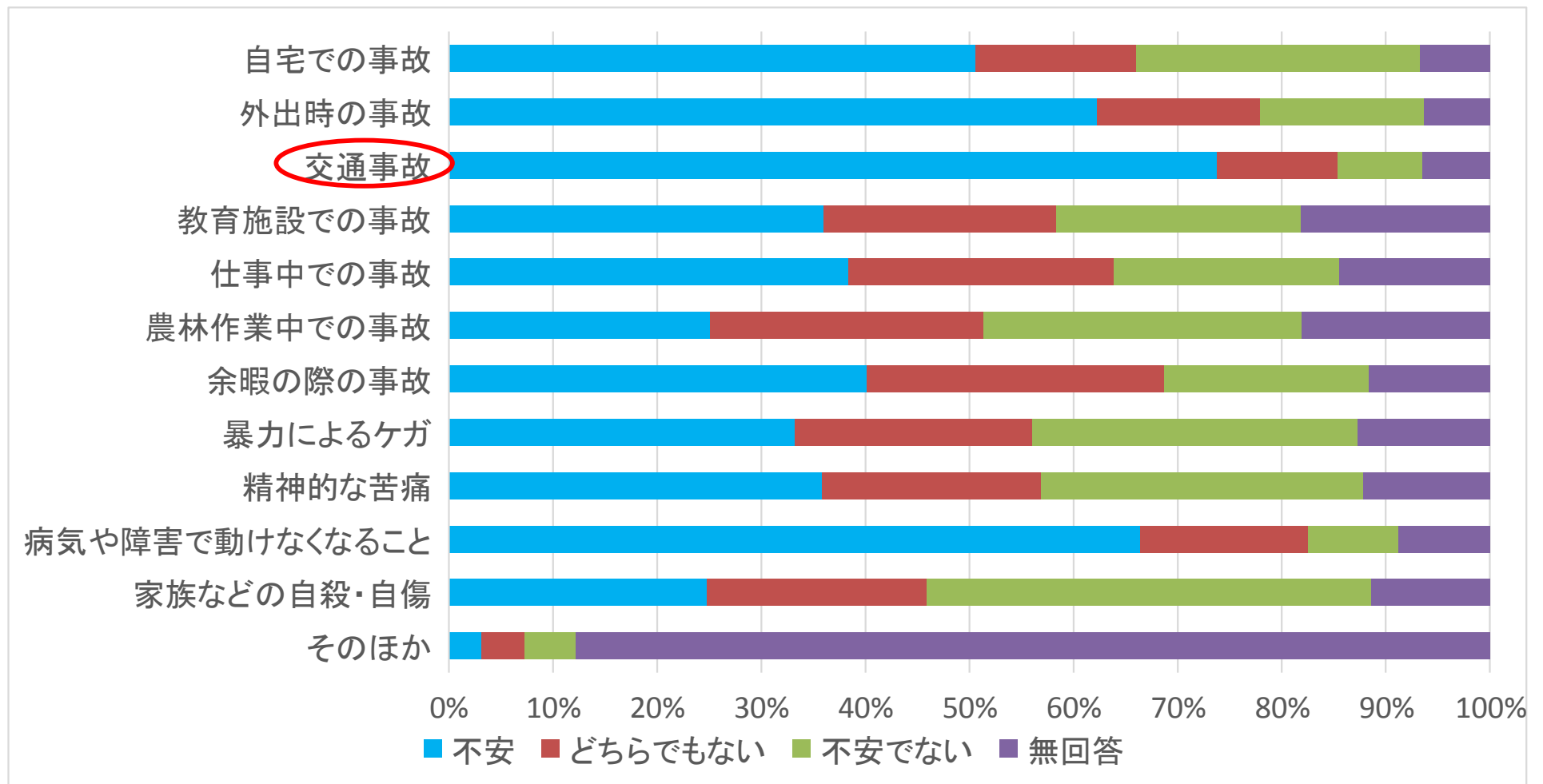


対策委員会設置の背景④

70%以上の人が、交通事故に対して、「とても不安」、「少し不安」と回答していた。

(図表4 : 事故に対する不安の市民アンケート結果)

出典: 秩父市安心・安全アンケート(2013年)



交通安全対策の必要性

背景①

秩父市内の交通事故発生件数は年々減少しているが、まだ多い状況であった。(図表1)

背景②

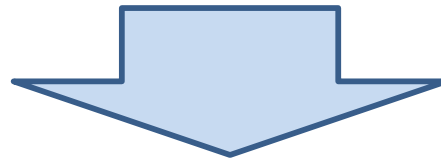
事故別の救急搬送の中で交通事故が多かった。(図表2)

背景③

秩父市内の死亡交通事故発生件数は、国や県を上回っていた。(図表3)

背景④

交通事故に対して不安を感じている人が多かった。(図表4)



交通安全対策委員会の設置

交通安全対策委員会の構成

区分	団体・組織名	委員数
住民組織等	秩父タクシー協会	1名
	秩父市交通安全母の会	1名
	秩父市町会長協議会	1名
	秩父地方交通安全協会	1名
	秩父市交通指導員	1名
	秩父市交通安全教育担当指導員	1名
	秩父地区交通安全推進事業所協会 new	1名
	埼玉県道路使用適正化協会秩父支部 new	1名
警察	秩父警察署	1名
	小鹿野警察署 new	1名
行政機関	埼玉県秩父県土整備事務所	1名
	秩父市（道路維持課、市民生活課、公募職員）	4名

交通安全対策委員会の経過

回数	開催日	主な会議内容
第16回 ～ 第27回	2016年 5月 ～ 2019年 5月	取組み①～⑦について協議 「取組みの充実・周知・新規」、「課題の整理と対策」、 「成果と評価指標」、「アンケートの結果」、「連携強化と 効果的な取組み」、「効果的な引継ぎ」について
	2016年 10月19日	◆SC認証1周年記念イベント（箕輪町SC関係者による講演会 とSC取組み報告）
	2017年 9月10日	横浜市栄区SC事前指導視察
	2017年 11月25日	◆市民安全・安心フォーラム2017inちちぶ（S C 認証2周年 記念イベント）有識者によるS C分科会等の開催
	2018年 5月 2019年 5月	◆SC講演会（新委員向け研修含む）
	2018年 8月	防犯講演会参加「子どもと地域の安全をどう守るか」
	2019年 2月1日	◆SC事業報告会
第28回	2019年 8月7日	◆「再認証事前審査報告内容の確認」について

データに基づく客観的課題①

交通事故の歩行者の事故件数では、高齢者が多い。

(図表5:重傷、死亡事故の年齢別当事者 n=332)

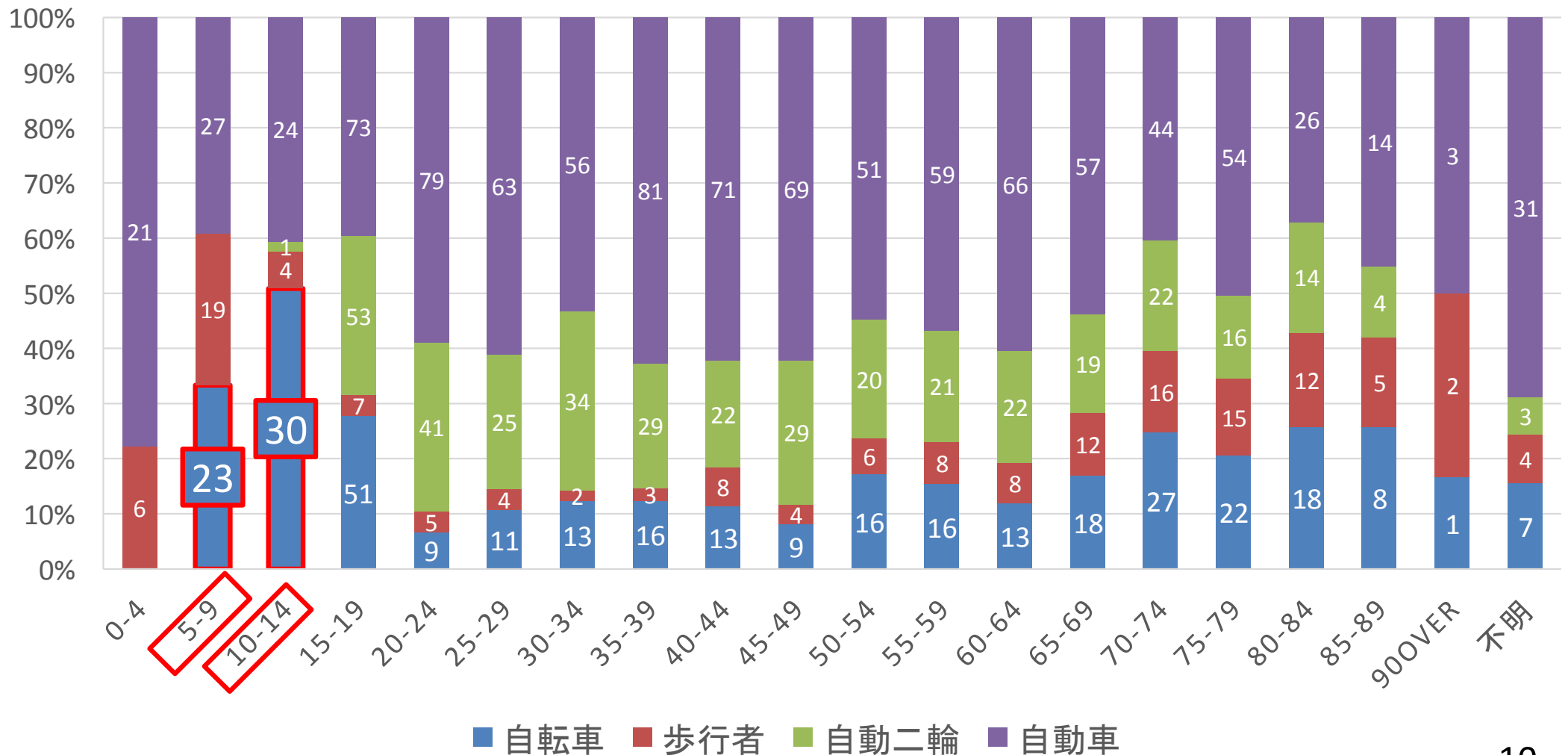
出典：警察統計データ (2013～2018)

年齢	自動車			バイク・原付			自転車			歩行者			単位:人
	第1	第2	計	第1	第2	計	第1	第2	計	第1	第2	計	合計
0～4			0			0			0		1	1	1
5～9			0			0	2		2		1	1	3
10～14			0			0	3	1	4		1	1	5
15～19	7		7	2	4	6	1	4	5			0	18
20～24	14	5	19	3		3			0		1	1	23
25～29	8	1	9	2	3	5			0		3	3	17
30～34	11	2	13		3	3			0		1	1	17
35～39	7	5	12	2	2	4		2	2		2	2	20
40～44	11	1	12		3	3	1		1		3	3	19
45～49	12	2	14	1	9	10		1	1		1	1	26
50～54	6	6	12	1	3	4		2	2		2	2	20
55～59	9	5	14	1	3	4		1	1		6	6	25
60～64	9	1	10	1	2	3		1	1		5	5	19
65～69	20	1	21	2	1	3	1	1	2	1	6	7	33
70～74	14	3	17	1	1	2			0		12	12	31
75～79	8	2	10	1		1	1	3	4		9	9	24
80～84	3	1	4	1	1	2	2		2	1	10	11	19
85～89		1	1		1	1	2		2		4	4	8
90～			0	1		1	2		2		1	1	4
計	139	36	175	19	36	55	15	16	31	2	69	71	332

データに基づく客観的課題②

交通事故を割合別で見ると、5~14歳が自転車事故の割合が多いことが分かった。

(図表6:交通事故の年代別発生状況 n=1,815) 出典：救急搬送データ（2008~2013年）

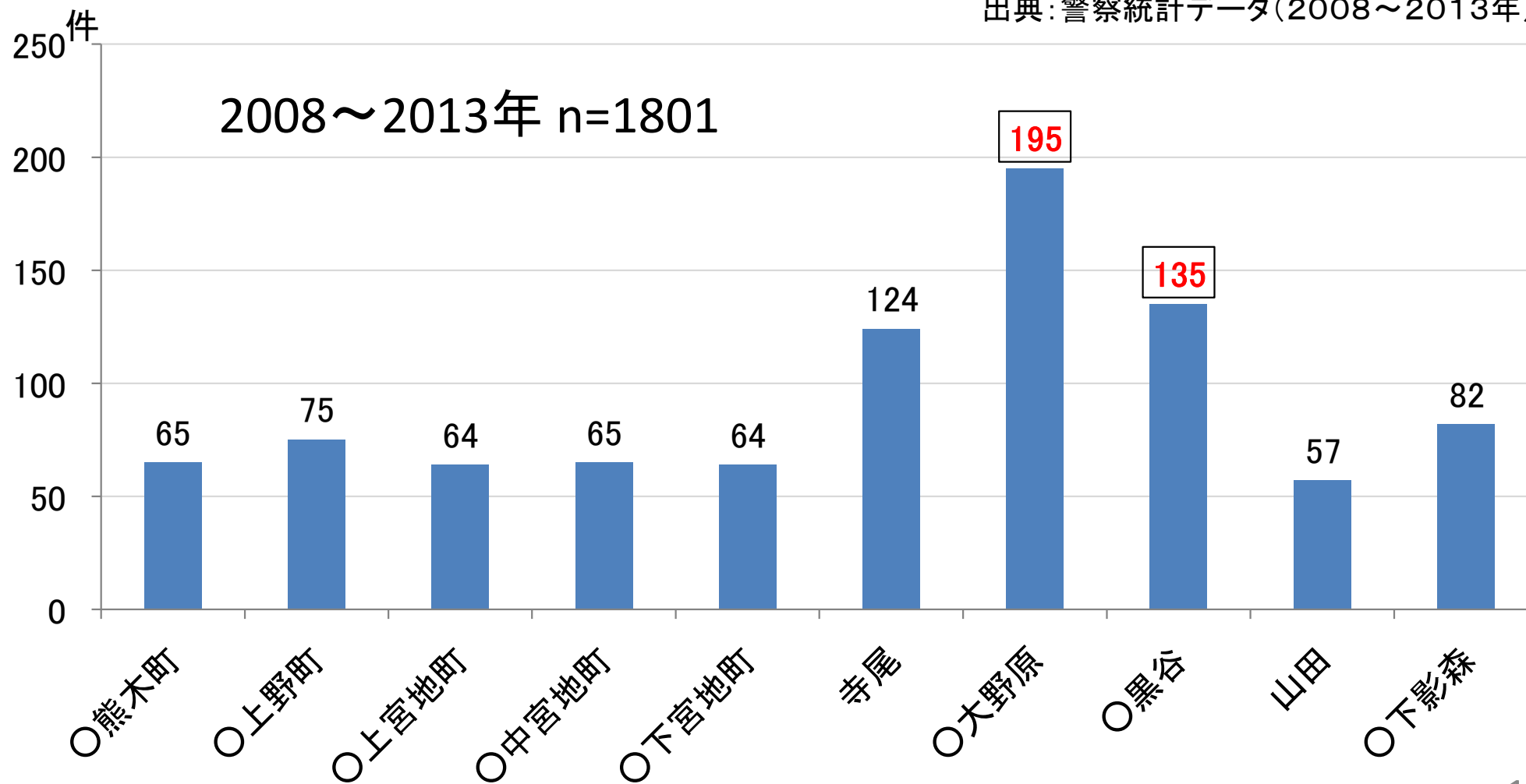


データに基づく客観的課題③

- ・ 地区別発生状況では、国道140号沿いが多く、特に、大野原地区、黒谷地区での発生が多い。

(図表7: 上位10地区別交通事故発生件数)

出典: 警察統計データ(2008~2013年)



・8地区(○印)は、国道140号沿い

データに基づく客観的課題④

- ・ 国道140号、県道などの主要幹線の特定の場所で事故が多い

人身事故発生地点(2016年4月1日～2019年3月31日)



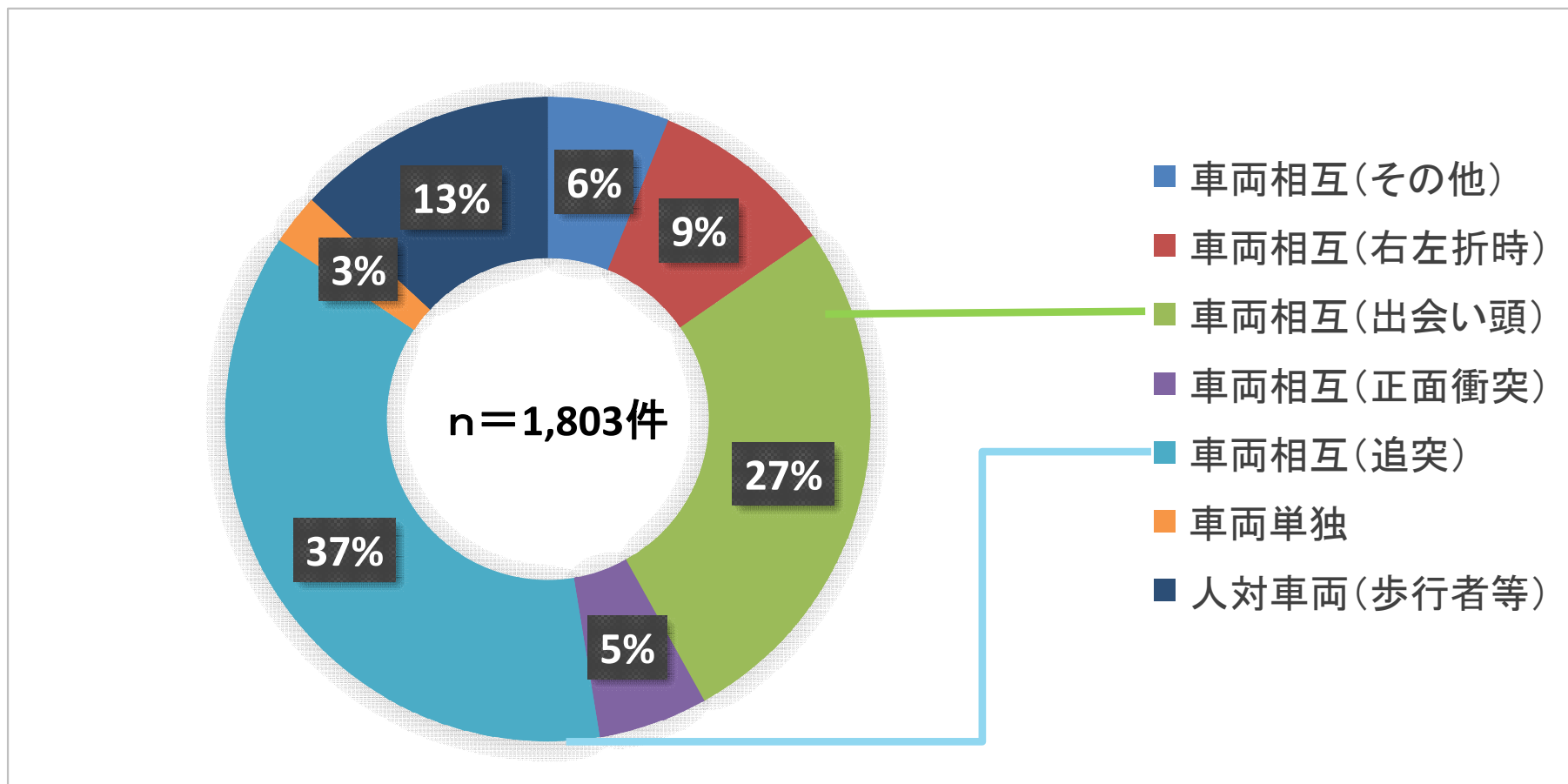
- ★ 軽傷事故
- ★ 重傷事故
- ★ 死亡事故

データに基づく客観的課題⑤

- ・ 事故種別では、追突事故が最も多く、次に出会い頭の事故が多くなっている。
- ・ 追突事故と、出会い頭の事故で6割以上。

(図表8: 秩父市全体の事故種別発生割合)

出典: 警察統計データ(2008年~2013年)



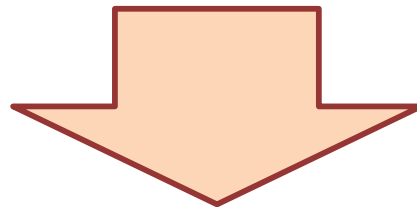
重点対象

課題① 高齢者の歩行中での事故が多い。

課題② 子どもの自転車乗車中の事故が多い。

課題③ 特定の路線で、交通事故が多い。(大野原、黒谷地区を含む国道140号線)

課題④ 追突事故が多い。



重点対象：子ども、高齢者、事故多発地域

課題に対する取組み

課題

課題①

高齢者の歩行中での交通事故が多い。

課題②

子どもの自転車乗車中の事故が多い。

課題③

特定の地区で、事故が多い。

課題④

追突事故が多い。

方向性

方向性①

交通安全意識及び安全行動の改善

方向性②

事故多発地域に対する事故防止対策の強化

取組み

取組み①

交通安全教室(高齢者)

取組み②

高齢者世帯訪問

取組み③

交通安全教室(子ども)

取組み④

プロドライバーからの情報収集

取組み⑤

街頭キャンペーン

取組み⑥

道路環境の整備

取組み⑦<新>

セーフドライブプロジェクト

課題①②に対するレベル別の対策

課題	対策			
	方向性	国・県レベル	市レベル	地域レベル
<p>(課題①) 高齢者の歩行中での事故が多い。</p> <p>(課題②) 子どもの自転車乗車中での事故が多い。</p>	教育・啓発	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全計画の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ◆交通安全教室 ◆市報での啓発 ◆自転車ヘルメット購入補助金制度 	<ul style="list-style-type: none"> ◆各学校、老人クラブ等での交通ルール・マナーの啓発
	規制・罰則	<ul style="list-style-type: none"> ◆道路交通法による規制・罰則 ◆埼玉県自転車の安全な利用の促進に関わる条例 ◆警察の取締り 		
	環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ◆規制に関連する道路標識の設置(止まれ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆通学路対策 ◆路面標示、立看板の設置(ゾーン30等) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆立看板の申請

交通安全対策委員会の取り組み

- ・交通安全教室(自転車ヘルメット啓発)
- ・高齢者世帯訪問
- ・プロドライバーからの情報収集
- ・自転車ヘルメット購入補助金利用促進